

(様式1)

[年度] 平成29年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] イチゴ新品種‘紀の香’の育成と栽培技術開発

[担当機関名] 農業試験場栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 野菜

[分類] 普及

[背景・ねらい]

平成24年3月に、‘かおり野’を母親に、‘こいのか’を父親に交配し、得られた実生から選抜を繰り返し、平成28年3月に‘紀の香’を選抜、品種登録出願し、平成28年6月28日に出願公表されました(図1、2)。新たに育成した‘紀の香’は、‘まりひめ’よりも炭そ病に強く、極早生で良食味です。現場への普及を進めるため、‘紀の香’の特性を活かした栽培技術を開発します。



図1 ‘紀の香’果実(外観と切断面)



図2 ‘紀の香’の着果の様子

[研究の成果]

1. 花芽分化時期は9月上旬で、10月中旬に開花、11月中旬から収穫でき(表1)、果実の糖度が高く、収穫始めから‘まりひめ’と同等以上で推移します(図3)。また、‘紀の香’は、5月以降も花房の発生が多く、ランナーの発生時期は‘まりひめ’や‘さちのか’よりも遅くなります。

表1 異なる品種における頂花房頂果の開花日および収穫日

品種	開花日	収穫日
かおり野	10月5日	11月2日
紀の香	10月16日	11月14日
こいのか	10月28日	11月30日
まりひめ	11月12日	12月22日
さちのか	11月20日	1月4日

注) 採苗日: 平成28年6月15日
定植(花芽分化確認後に定植): ‘かおり野’: 9月8日、
‘紀の香’: 9月6日、‘こいのか’: 9月13日、‘まりひめ’: 9月20日、‘さちのか’: 9月26日

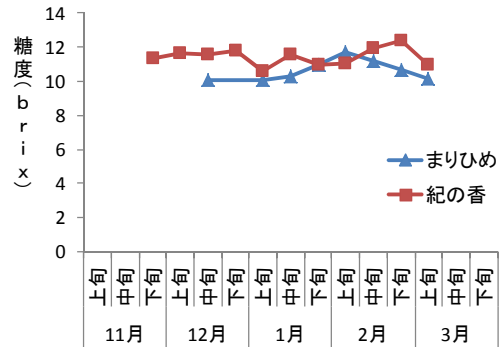


図3 ‘紀の香’の時期別糖度の推移

2. 育苗にあたっては、6月上旬など発生初期のランナーを採苗した大苗は、早期出蕾しやすいため、6月中旬~7月上旬の採苗が適します(表2)。

採苗日	早期開花株率(%)
6月1日	71
6月15日	22
7月1日	8
7月15日	38

注) 定植日: 平成28年9月6日
早期開花株: 定植後に9月30日までに頂花房頂果が開花した株

3. 定植は株間23cmが適し、2条千鳥植で畝幅130cmとして10a当たり6600株程度の栽植密度とします。9月上旬に定植すれば11月上中旬から収穫できます。12月中旬以降も連続して収穫するには9月中旬以降の定植と組み合わせます(表3)。

4. 育苗後期の電照処理により収穫開始時期を調節できます。8月中下旬から15時間日長で電照を行い、9月1日までの処理で11月下旬から、9月10日までの処理では12月上旬からの収穫開始となります（図4）。

5. 元肥を多肥にすると第一次腋花房の開花が遅れ、1月に中休みする傾向があるので、元肥は窒素成分で5kg/10a程度の少肥とし、追肥重点型の肥培管理とします（図5）。

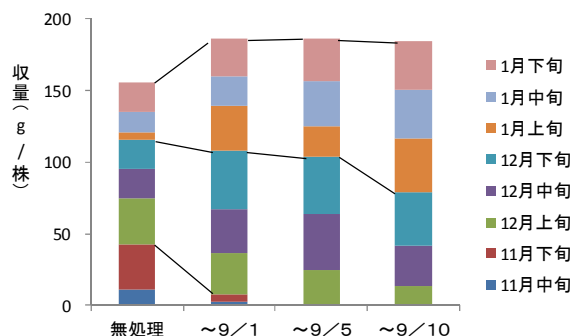


図4 育苗期の電照処理期間による‘紀の香’の時期別収量の違い

注) 定植日：平成29年9月15日、
電照開始時期・時間：8月21日・18時～21時

表3 定植時期の違いが収穫開始時期に及ぼす影響

定植日	頂花房		第一次腋花房	
	開花始期	収穫始期	開花日	開花日
9月6日	10月12日	11月7日	12月19日	
9月12日	10月13日	11月13日	12月22日	
9月16日	10月19日	11月16日	12月24日	

注) 採苗日：平成28年6月15日、切り離し：平成28年6月30日
日付は、それぞれの処理区での平均日

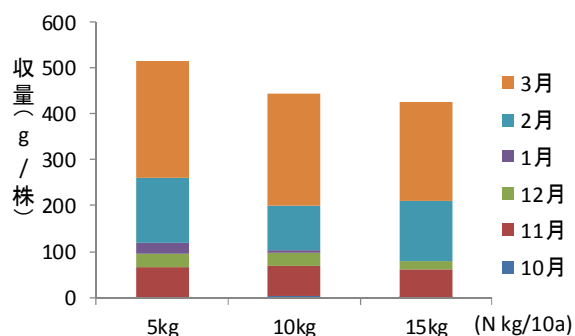


図5 異なる元肥窒素量における‘紀の香’の時期別収量の違い

注) 定植日：平成28年9月6日

6. ‘紀の香’は花房当りの花数は10花程度で少ないですが、出蕾が連続する2月以降は冬期の日射量の減少や気温低下、着果負担の増加などにより草勢が低下しやすいので、弱小花（果）などの摘花（果）が必要です。

[成果のポイントと活用]

1. ‘紀の香’は、ハウス促成栽培に適した品種で、本成果は鉄骨ビニールハウスでの土耕栽培（最低温度5℃設定）によるものです。
2. ‘紀の香’の果実は香りが良く、糖度が高く、適度な酸もあるので、生食だけでなく製菓用にも向きます。
3. 本品種は和歌山県内でのみ栽培ができ、栽培にあたっては、和歌山県いちご生産組合連合会に入会する必要があります。
4. 栽培方法等の詳細は農試HPで公開する栽培マニュアルを参考にしてください。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成27～29年

研究担当者：東 卓弥

発表論文等：

ホームページ掲載の可否：可